

2022(令和4)年5月24日 報道発表資料
[本リリース発信元] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)



クロナス・クァルテット 2022 JAPAN 京都公演
《ブラック・エンジェルス》 & 《ディファレント・トレインズ》

結成 50 年にして、常に時代の最先端を走り続ける
伝説の弦楽四重奏団が、遂に京都初登場

2022年9月24日(土) 18:00 開演
ロームシアター京都 サウスホール

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当: 松本、山形
電話: 075-771-6051(9:00~17:00) FAX: 075-746-3366 E-

■ 企画趣旨

1973年の結成以来、現在もなお全世界中で演奏活動を繰り広げている、**最高にユニークで、唯一無二の弦楽四重奏団「クロノス・クアルテット」**。これまで数千回にも及ぶコンサートや60タイトル以上のレコーディング、様々なアーティストとのコラボレーション、そして1,000を超える弦楽四重奏のための作曲や編曲の委嘱など、クラシック音楽の枠を超えた弦楽四重奏団として、あらゆるジャンルのアーティストからリスペクトされています。



©Evan Neff

今回、結成50周年・19年ぶりの来日になるとともに、**京都で初のコンサートが実現**します。1970年のベトナム戦争にインスパイアされ、カルテット結成の契機ともなった20世紀アメリカ弦楽四重奏曲の最高傑作、ジョージ・クラム作曲《ブラック・エンジェルズ》と、スティーブ・ライヒが彼らのために作曲したグラミー賞最優秀現代音楽作品賞受賞曲《ディファレント・トレインズ》。これらの代表曲を一度に聴けるのは、京都だけの特別プログラムです。

出演:クロノス・クアルテット

デイヴィッド・ハリントン (芸術監督&ヴァイオリン) David Harrington (Violin)
ジョン・シャーバ (ヴァイオリン) John Sherba (Violin)
ハンク・ダット (ヴィオラ) Hank Dutt (Viola)
サニー・ヤン (チェロ) Sunny Yang (Cello)

曲目:

ジョージ・クラム: ブラック・エンジェルズ
アレクサンドラ・ヴレバロフ: イレトリクス・ライムズ (新作・日本初演)
トラディショナル (ジェイコブ・ガーシック編曲): 朝日のあたる家 (エヴァリー・ブラザーズ讃)
ジョージ・ガーシュウィン (ガーシック編曲): サマータイム (ジャニス・ジョプリン讃)
ローリー・アンダーソン (ガーシック編曲): フロー
スティーブ・ライヒ: ディファレント・トレインズ

■ 今回の公演の聴きどころ

ジョージ・クラム：《ブラック・エンジェルズ》のクロノス・クアルテットによる演奏

20世紀アメリカ弦楽四重奏曲の最高傑作が、斬新な演出とクロノス・クアルテットによる演奏で披露されます！

20世紀アメリカで生まれた「最高の弦楽四重奏曲」と言われるこの「ブラック・エンジェルズ」は、クロノス・クアルテットのリーダー、デイヴィッド・ハリントンが結成時に聴き衝撃を受け、その後のグループの方向性に大きな影響を与えました。

1970年アメリカの作曲家、ジョージ・クラムが当時進行中だったベトナム戦争にインスパイアされたこの曲は、通常の弦楽器の演奏法だけではなく、電気変調した音やタムタムなどの打楽器、クリスタル・グラスを擦る音や、声など、あらゆる多彩な音色と演奏法により、強烈なメッセージを聴き手に与えます。

ジョージ・クラムは、2022年2月に惜しくも92歳で逝去しましたが、デイヴィッド・ハリントンは故人を偲び以下のような声明を出しました。

「1973年、《ブラック・エンジェルズ》は私に全く新しい世界を開きました。戦争に対するレスポンスとして、ジミ・ヘンドリックスそしてシューベルトが突然、ひとつになりました。私にはクロノス・クアルテットを結成するしかありませんでした。今日でもこの作品は、鮮やかで探索的で大きな可能性に満ちています。私は彼にさらに別の弦楽四重奏曲を書いてもらうよう何年も説得しましたが、今では気づきました。この《ブラック・エンジェルズ》に続く音楽を作るのは私たち皆の仕事なのだとすることを。」

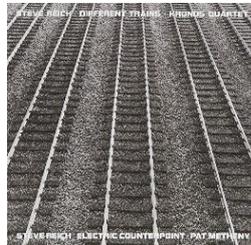
今回、強力な演出によるこの作品の生演奏に立ち会えることは、聴くものに大きな感動と共に「平和」への強い気持ちを促すものとなるでしょう。



スティーヴ・ライヒがクロノスのために書いた弦楽四重奏の名曲「ディファレント・トレインズ」を演奏

クロнос・クアルテットのオファーによって作曲家スティーヴ・ライヒが作曲した弦楽四重奏曲の傑作が、初演者・クロнос・クアルテットの演奏で披露されます！

スティーヴ・ライヒがクロнос・クアルテットの委嘱により 1988 年に作曲したこの「ディファレント・トレインズ」は、あらかじめ録音されたサウンド（弦楽四重奏の演奏、話し言葉の断片、電氣的に加工された汽車の音、サイレンの音、等）と、弦楽四重奏によって演奏される作品で、ドキュメンタリー性の強い楽曲であり、**20 世紀アメリカ弦楽四重奏曲の最高傑作**といえます（1989 年のグラミー賞最優秀現代音楽作品賞を受賞）。このライヒの名曲が、クロнос・クアルテットによって演奏されるのは、最近では日本だけの特別な機会です！



■プロフィール

クロнос・クアルテット Kronos Quartet



©Jay Blacksberg

サンフランシスコ出身のクロнос・クアルテットは、1973 年の結成から長きにわたり、弦楽四重奏団としての可能性を追求する意志と、大胆に探求していく精神とを併せ持って活動してきた。その中で、世界で最も有名で影響力のあるアンサンブルの 1 つとなり、これまでに数千回にわたるコンサートを行い、60 タイトルを超えるアルバムをリリース、そしてさまざまなジャンルの要素が融合した作曲家やアーティストたち、そしてマルチ・メディアのアーティストと、弦楽四重奏のための 1,000 以上のレパートリーの創作、演奏、録音などを行っている。これまでに 2 回のグラミー賞、世界的に名高い「ポラー・ミュージック賞」や「エイブリー・フィッシャー賞」「WOMEX(World Music Expo)アーティスト賞」などを含む 40 以上の賞を受賞している。

■ クロノス・クアルテットとは



©Jay Blakesberg

結成から 50 年、なお第一線で演奏を継続

クロノス・クアルテットは、1973 年にヴァイオリニストのデイヴィッド・ハリントンによってシアトルで結成され、その後サンフランシスコを拠点に世界中で活動を行っています。現在のメンバーは、デイヴィッド・ハリントン（芸術監督 & ヴァイオリン）、ジョン・シャーバ（ヴァイオリン）、ハンク・ダット（ヴィオラ）と、4 代目のチェリストとして、女性のサニー・ヤンが 2013 年より参加しています。

長年にわたるクロノス・クアルテットの活動は、まさに現代音楽に取り組む若い弦楽四重奏団たちの先駆けといえる存在です。

毎年 70 公演を超えるコンサートを世界各地で開催

クロノス・クアルテットは、コロナ前にはほぼ毎シーズン 70 公演を超える演奏活動を世界中で行っていました。

2017/18 年シーズンには、ロンドンのバービカン・センター、ロイヤル・フェスティバルホール、オランダのロイヤル・コンセルトヘボウ、NY のカーネギーホール、ソウルの LG アートセンター、パリのフィルハーモニー等、世界中の大ホールで演奏し、次のシーズンもモスクワ、ポーランド等、大型ヨーロッパ・ツアーも計画されています。

そして満を持して、**2003 年以來 19 年振り 11 回目の来日公演**が実現します！

現代の作曲家との共同作業

クロノス・クアルテットは、1975年のショスタコーヴィチの死去を境に、現代作品の紹介と弦楽四重奏のためのレパートリーの拡充を、活動の主たる目的として、世界中の作曲家に次々と新作の委嘱を重ねてきました。その中には、モートン・フェルドマン、エリオット・カーター、アルヴォ・ペルト、アルフレッド・シュニトケ、ジョン・アダムスなど20世紀を代表する作曲家や、**スティーヴ・ライヒ**、**フィリップ・グラス**、**テリー・ライリー**、**ケヴィン・ヴォランズ**、**マイケル・ゴードン**など、いわゆる**ミニマル・ミュージックの作曲家**も、クロノス・クアルテットのために作品を多く提供しており、それらの数は編曲や共作を含め**1,000曲**を超えています。

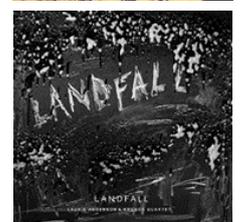
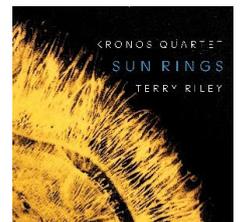
さまざまな音楽ジャンルでの演奏

クロノス・クアルテットは、現代の作品の演奏のみならず、古典派以前のクラシック音楽、ジャズ（ビル・エヴァンスやセロニアス・モンクの作品）やタンゴ（ピアソラ）、映画音楽などのほか、ラテン・アメリカやルーマニア（ジプシー楽団「タラフ・ドゥ・ハイドゥークス」との共演）、アフリカ、インド、中東などのワールド・ミュージックについても積極的に取り組んでおり、特に、過去、最も話題となった**ジミ・ヘンドリックスの「紫のけむり（Purple haze）」**の録音・演奏以降も、ピート・タウンゼントやヘンリー・スレッジ、デヴィッド・ボウイ、ビョーク、シガー・ロスなど、ポピュラー・アーティストとのクロスオーバーにも意欲的に取り組んでいます。

数多くのレコーディングとグラミー賞などの受賞

クロノス・クアルテットは、1985年に**ノンサッチ・レーベル**（日本販売元：ワーナー・ミュージックジャパン）と専属契約を結び、翌1986年にレーベル・デビューアルバム『紫のけむり～現代の弦楽四重奏曲』を発表。これまでに**60タイトルを超えるアルバム**をリリースしています。

そのうち『**ライヒ：ディファレント・トレインズ**』で**1989年度グラミー賞最優秀現代作品賞**を、ドーン・アップショウとの『**ベルク：抒情組曲（ソプラノと弦楽四重奏のための初稿版）**』で**2004年グラミー賞最優秀室内楽演奏賞**を受賞しました。その後も数多く同賞にノミネートされており、**2018年グラミー賞最優秀室内楽・パフォーマンス部門**では、前衛パフォーミング・アーティストの**ローリー・アンダーソン Laurie Anderson**との共作アルバム『**LANDFALL**』が受賞。そして**2020年グラミー賞**では、テリー・ライリー『**サン・リングズ**』が、**最優秀アルバム技術賞クラシック部門（The Best Engineered Album, Classical）**を受賞し、注目されました。



■ 公演概要

クロノス・クアルテット 《ブラック・エンジェルス》 & 《ディファレント・トレインズ》

日時：2022年9月24日(土) 18:00 開演

会場：ロームシアター京都 サウスホール

チケット料金：

全席指定

1階席 6,000円、2階席 5,000円、ユース(25歳以下) 3,000円、

18歳以下 1,500円

※ユースおよび18歳以下チケットご購入者は、公演当日、受付にて年齢が確認出来る証明書をご提示ください

※未就学児入場不可(託児サービスあり/詳細はロームシアター京都 WEB サイトをご覧ください)

チケット取扱：

- オンラインチケット 24時間購入可※要事前登録(無料)

<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

- ロームシアター京都チケットカウンター

TEL.075-746-3201(窓口・電話とも10:00~19:00/年中無休※臨時休館日を除く)

- 京都コンサートホールチケットカウンター

TEL.075-711-3231(窓口・電話とも10:00~17:00/第1・3月曜日休館※休日の場合は翌日)

- チケットぴあ：<https://t.pia.jp/>《Pコード：217-437》

- e+ (イープラス)：<https://eplus.jp/>

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人

日本芸術文化振興会

後援：京都新聞

企画・招聘：OZAWA ART PLANNING LLC